

The Izawanomiya Rice Planting Festival is designated as a folkloric cultural asset and, along with those of Katori Shrine in Chiba and Sumiyoshi Grand Shrine in Osaka, is one of the three main rice planting festivals in Japan. The Festival takes place on June 24 every year. First, a large bamboo structure is lowered into a rice paddy where village men fight to take home pieces of the "holy bamboo". Then, the rice planting is conducted following a strict traditional style, while serene Dengaku music is played. Finally, people dance toward the Ichinotori Gate as the Festival climaxes.



竹取神事(TAKETORISHINJI)

松竹梅、太陽、月、千石船などが描かれた団扇(＝サンバ)が付けられた忌竹を、男たちが泥だらけになりながら奪い合う。



御田植神事 (OTAUESHINJI)

田道人と早乙女たちがおごそかに早苗を植えていく素朴な神事は、太鼓打ちや笛吹きらが奏でる田楽と謡に合わせて、優雅にとり行われる。



踊込み(ODORIKOMI)

あふれる観衆の中を、神事を終えた役人たちが伊雑宮の一の鳥居へと向かう。



白真名鶴の伝説がその起源と伝えられる伊雑宮御田植祭は、千葉の香取神宮、大阪の住吉大社とともに日本三大御田植祭の一つに数えられ、磯部に初夏の到来を告げる。勇壮な男たちが大きな団扇のついた忌竹を奪い合う竹取神事、古式ゆかしい装束に身を包んだ太鼓打ちや鼈摺らによる田楽が響きわたる中、白い着物に赤いたすきがけをした早乙女たちによって厳かに行われる御田植神事、その後、一の鳥居に向けて行われる踊込みと、祭りはいくつもの情景を私たちに見せてくれる。この神事が現在の形になったのは江戸時代初期と考えられ、その起源は平安末期か鎌倉初期と伝えられている。太古より脈々と受け継がれてきた伝統と歴史の積み重ねに生まれた、荘厳な時代絵巻が繰り広げられる。

御田植祭刺鳥差数え唄

(おくわか)

一ツ日の本神代の昔

ニツ不思議にかの真名鶴が

三ツ瑞穂をくわえて来たる

四ツ世の中五投のはじめ

五ツ磯部はその元ぞかし

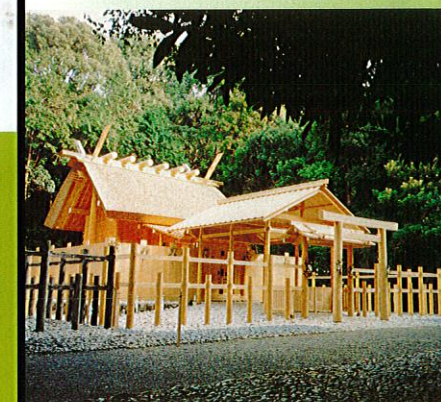
六ツ昔の儀式の舞を

七ツ鳴りもの謡に乙女

八ツやあはあの声うち揃わせて

九ツこの田を首尾よく植えて

十で豊けき秋祈るなり



伊雑宮(IZAWA-NO-MIYA-SHRINE)

(いざうぐうともいう)
伊勢神宮内宮の別宮の中でもとりわけ高い格式を誇る。

ISE-SHIMA NATIONAL PARK/ISOBE